

沙漠誌分科会 2014 年度総会 議事録

日時：2014 年 6 月 1 日（日）12:30～13:10

場所：東京都市大学横浜キャンパス 3 号館 2 階 32B

出席：牛木久雄、石本雄大、石山俊、内野香美、遠藤仁、門村浩、篠田雅人、縄田浩志、広瀬和世、藤本悠子、古澤文、布和宝音、平田昌弘、宮寄英寿、矢沢勇樹、渡邊三津子（委任状提出者：井黒忍、伊東明彦、伊藤奈保子、梅村坦、岡田保良、尾崎孝宏、窪田順平、久保亮介、佐藤洋一郎、清水芳見、杉原創、瀬戸進一、手代木功基、中村洋、森島濟、安田裕、山本雄大、吉野正敏）

・議事に先立ち、今回の総会成立について説明が行われた。当日時点での会員数は 52 名、そのうち今回の参加者は 34 名（委任状 18 名分を含む）であった。総会の成立要件である会則第 8 条（「正会員の 3 分の 1 以上で総会は成立する」）を満たしており、よって本会が成立する旨が説明された。

・牛木会長より総会趣旨、昨年度総会および活動経緯の説明が行われた。その際、自身の会長職を来年度交代したいとの言及があった。

議題

1. 平成 25 年度の分科会事務局運営組織についての経過報告

■縄田事務局長から分科会事務局運営組織、ならびにこれまでの経過報告が行われた。

平成 25 年度の組織運営、研究活動に関する報告がなされた。

研究活動のうち研究会・シンポジウムについては、平成 25 年 6 月 22 日に京都大学にて開催された研究会「乳利用の有無からの牧畜論再考 — 旧・新大陸の対比」、および、平成 26 年 3 月 7 日に秋田大学にて開催されたシンポジウム「中東・北アフリカにおける水資源管理の歴史・文化・社会」の説明がなされた。

研究活動のうちに沙漠学会誌小特集については、VOL. 23-2（平成 25 年 9 月 23 日発行）に掲載された「サーヘル地域による旱魃と人間活動の変容」（沙漠誌分科会研究会を平成 24 年 12 月 8 日開催）、VOL. 23-3（平成 25 年 12 月 25 日発行）に掲載された「モンゴルにおける災害と人間活動の変容」（沙漠誌分科会研究会を平成 25 年 4 月 14 日開催）に関する説明がなされた。

■情報発信に関して担当会員からこれまでの経過報告が行われた。

渡邊会員からホームページの運営に関する説明がなされ、平成 25 年 10 月 30 日の開設、そして公開が継続中との報告がなされた。

古澤会員から、ニューズレター発行に関する報告がなされ、創刊号および第 2 号に関する説明がなされた。

石本会員から、メーリングリストの運営、特にリストの更新および現在の運用に関する報告がなされた。

■決算に関して担当会員から平成 25 年度の経過報告が行われた。

石本会員から、収入支出に関する報告がなされた。

2. 平成 26 年度事業計画(案)・予算(案)

■縄田事務局長及び担当会員より 2014 年度事業計画(案)・予算(案)の説明が行われた。

組織運営、研究活動、情報発信、予算(案)に関する説明がなされた。特に研究活動については、今年度予定される分科会研究会、その後の小特集の企画に関する説明が行われた。また、情報発信については、ニューズレターの原稿募集などが行われた。

3. その他

■縄田事務局長から会則訂正に関する説明がなされた。

前年度総会で採択された会則の第 9 条(設立年月日)のうち、設立年に誤りがあったため訂正をした。また、附則のうち、事務局の所在地を訂正した。

4. 質疑

■平田会員より研究会・シンポジウムの開催、および、小特集を組む際の手続きに関して質問がなされた。それに対して縄田事務局長から、「研究会・シンポジウム開催の提案は、会長・事務局長や事務局アドレス(sabakushi.c@gmail.com)へ行うこと」、「小特集には査読論文、非査読の講演要旨のいずれかが選択でき、査読論文の際には査読者を 2 名以上設ける必要がある。また査読者の内 1 名は編集委員であること」、「査読付き論文として掲載する場合は学会員であること。学会員でない場合は講演要旨として掲載。小特集の中に査読付き論文と要旨が混在しても可」、「小特集を組む際には事前に編集委員会に、枠組み、分量等、原稿提出時期等を伝えておくことができれば、掲載スペースの確保ができ、掲載がスムーズにいやすい」、「研究会・シンポジウムへの資金的援助は予算の関係上難しい」などの説明がなされた。平田会員から「他予算との抱き合わせでの開催(例、科研などとの共催)を積極的に行う必要がある」との確認がされ、合意を得た。

■平田会員よりニューズレターのトピックとして、調査道具(例えば、カメラ、GPS 測器など)の使用法・解説などを掲載、シリーズ化してはどうか、ただし皆さんからの情報を共有していくツールを開発していくことが先ず課題である、との発言がなされた。総会参加者からの、「書き手も限られ、担当者を置くなど力を注がないと、継続は難しいのではないか」との応

答に対し、平田会員が本トピックの担当をするとの、申し出がなされた。

※1 後日平田会員より、題名を『フィールドワークの7つ道具』とし、「第1回 カメラの形態とカメラの携帯法」、「第2回 ○○○」「第3回 ▲▲▲」とシリーズ化する提案がされた。

※2 加えて、広報委員会 Web 担当の渡邊会員より、分科会のホームページと連動させ、トピックに沿った話題を集める準備をする、との申し出がなされた。

■矢沢会員より、「沙漠誌分科会を文理融合の場にしていただき、日本沙漠学会本来の姿を中心に再生してもらえる会にして欲しい」と要望が出された。

◆以上の議題について過半数の承認を得た。